

「新世代モバイル通信システムの技術的条件」のうち 「狭帯域LTE-Advancedに関する技術的条件」の 検討開始について

2022年11月30日
事 務 局

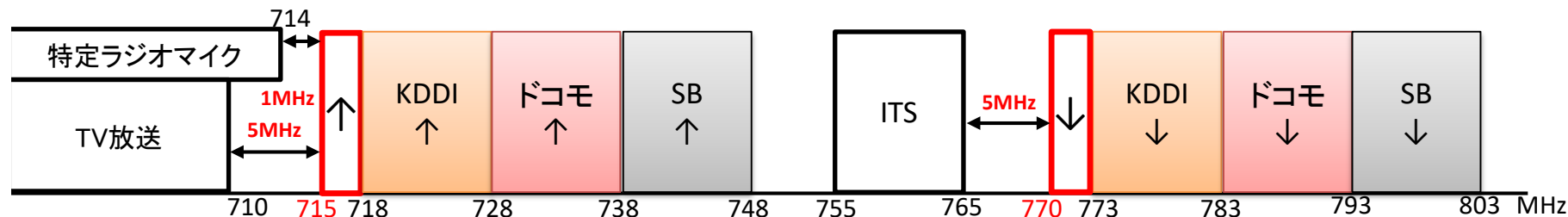
1. 検討の背景

- ✓ 「携帯電話用周波数の再割当てに係る円滑な移行に関するタスクフォース」報告書(案)において、「携帯電話用周波数の更なる確保に向けた検討を進めることが必要」との提言が出された。
- ✓ これを受け、携帯電話事業者から700MHz帯における3MHzシステムの利用可能性について提案があった。
- ✓ 700MHz帯のLTE-Advancedは、3GPPで国際規格化(Band28)されており、割当可能性があると考えられることから、狭帯域LTE-Advancedの技術的条件について検討を開始する。

2. 検討項目

① 700MHz帯の既存無線システムとの共用検討

地上デジタルTV放送(470-710MHz)、特定ラジオマイク(470-714MHz)等との共用検討



② 狭帯域LTE-Advancedの技術的条件

狭帯域LTE-Advancedの周波数帯※、変調方式、占有周波数帯幅、空中線電力 等

※3GPPで3MHzシステムが規格化されている700MHz帯、800MHz帯、900MHz帯、1.7GHz帯への導入を検討。

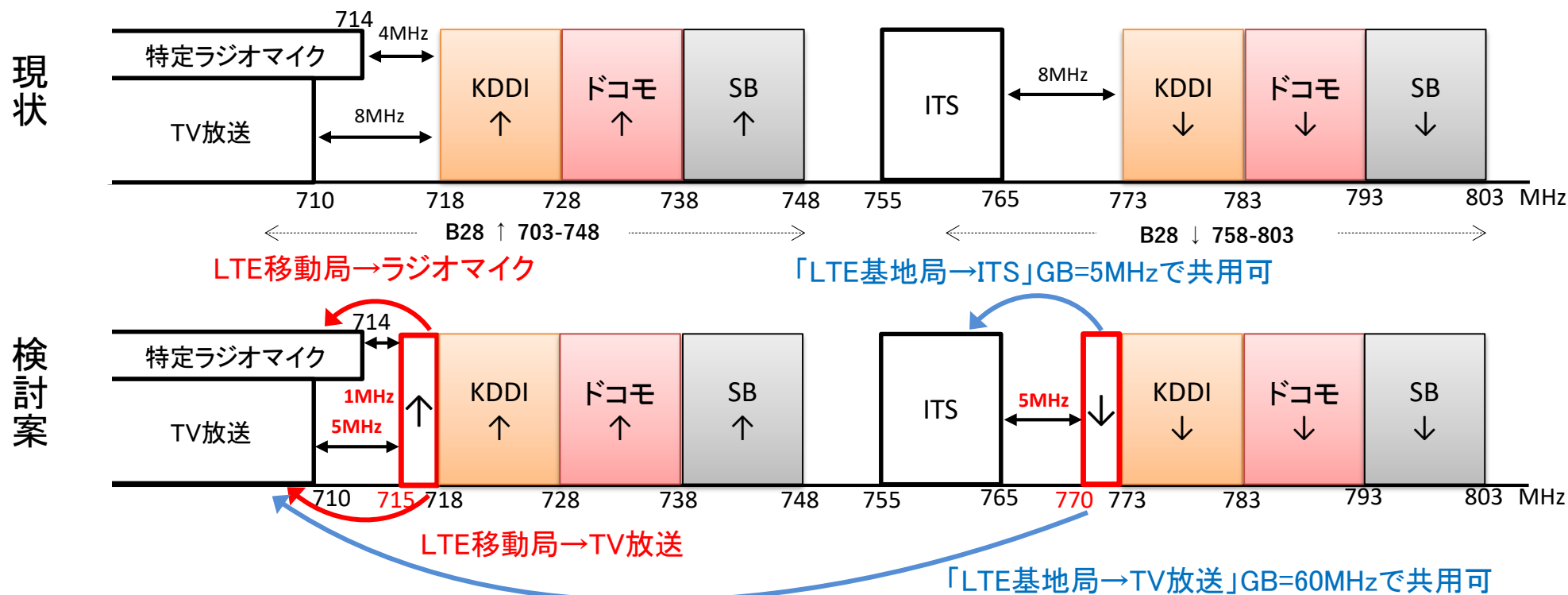
③ その他(運用時に必要な制度的検討等)

3. 今後の予定

- 令和5年春頃を目途に検討を取りまとめる。

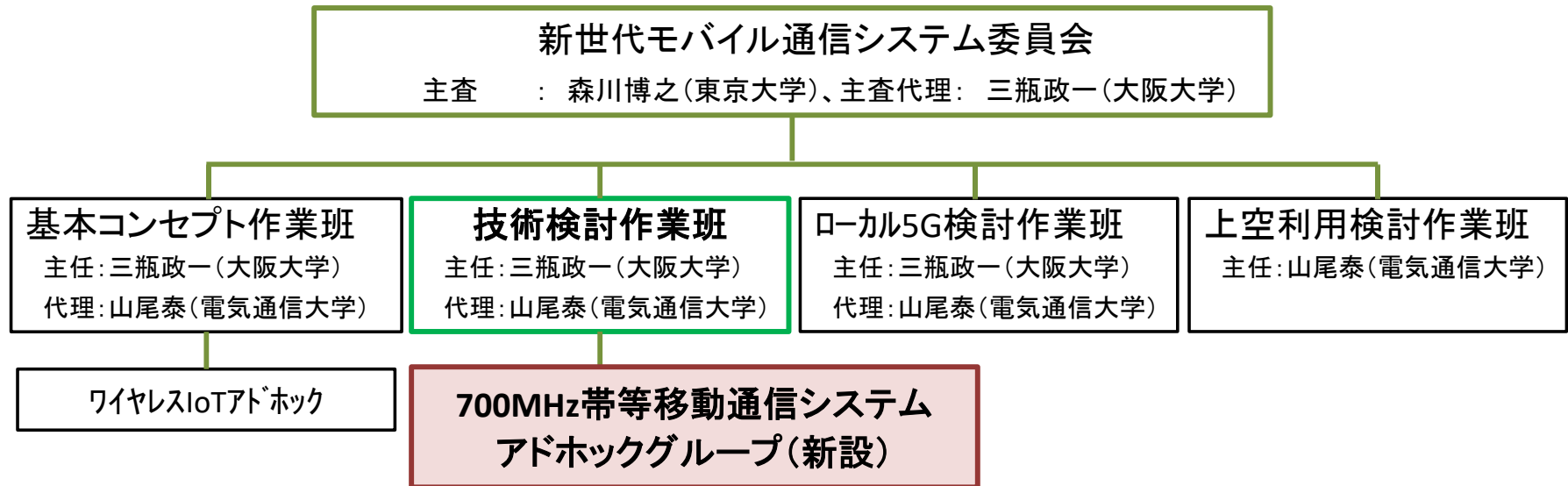
- ✓ 700MHz帯のLTE-Advancedは、国際的な標準化団体である3GPPにおいて「Band28」として国際規格化されており、国内外で販売されている多くのスマートフォン等が対応。
- ✓ 700MHz帯に狭帯域LTE-Advancedを導入するためには、過去の情報通信審議会※の共用検討を踏まえ、隣接帯域を使用している「地上デジタルTV放送」、「特定ラジオマイク」等との共用検討を行うことが必要。

※ 諮問第81号「携帯電話等の周波数有効利用方策」のうち「700MHz帯を使用する移動通信システムの技術的条件(2012年2月17日)」
「基地局→ITS」、「基地局→テレビ放送」については、GB=60MHz、GB=5MHzで共用可能とされており、過去の共用検討の範囲に収まる。



検討体制

- 700MHz帯の隣接帯域を使用している地上デジタルTV放送、特定ラジオマイク等との共用検討等を行うため、**技術検討作業班の下に携帯電話事業者、放送事業者、特定ラジオマイク関係者等から構成される「700MHz帯等移動通信システムアドホックグループ」を新たに設置する。**



アドホックグループ構成員（想定）

- ＜携帯電話＞ NTTドコモ、KDDI、ソフトバンク、楽天モバイル
- ＜放送事業者＞ 日本放送協会、(一社)日本民間放送連盟、放送事業者
- ＜ラジオマイク＞ (一社)特定ラジオマイク運用調整機構、ラジオマイクベンダー
- ＜機器メーカー＞ 4Gシステムベンダー
- ＜その他＞ 登録証明機関 等

(参考)過去の情報通信審議会における共用検討の結果(700MHz帯)

4

与干渉 被干渉	携帯電話↑ (移動局、中継を行う無線局(基地局対向器))	携帯電話↓ (基地局、中継を行う無線局(陸上移動局対向器))	TV放送	ITS	FPU	ラジオマイク
携帯電話↑ (基地局、中継を行う無線局(陸上移動局対向器))		① GB:10MHz ※基地局に送信フィルタ挿入 A 伝送幅の約2倍のバンドGAP、 約3倍の送受信GAPで装置設計可能	⑥ GB:4MHz(+離隔距離:2.3km) GB:6MHz(+離隔距離:0m) ※送信フィルタの交換等 ※極微小電力局を大規模中継局設備に交換 ※基地局/中継局受信フィルタ挿入 ※小電力レベータのデュプレキサ実値考慮	⑦ GB:5MHz ※ITSマスク改善、実力値考慮 ※サイトエンジニアリング ※中継局受信フィルタ挿入 ※小電力レベータ運用上の干渉軽減要素考慮 ※ITS路側機送信フィルタ挿入	⑧ GB:0MHz(中継局・小電力レベータ) ※確率モデル GB:5MHz(基地局) ※FPU実力値考慮 ※一定の離隔距離確保 ※サイトエンジニアリング	⑨ GB:1MHz(基地局・小電力レベータ) ※ラジオマイク実力値考慮 GB:3MHz(中継局) ※ラジオマイク実力値考慮 ※ラジオマイク実運用を考慮し総合的に判断
携帯電話↓ (移動局、中継を行う無線局(基地局対向器))	① GB:12MHz ※実力値考慮 A 伝送幅の約2倍のバンドGAP、 約3倍の送受信GAPで装置設計可能		⑥ GB:30MHz(+離隔距離:470m) GB:60MHz(+離隔距離:0m) ※送信フィルタの交換等 ※極微小電力局を大規模中継局設備に交換 ※移動局/小電力レベータのデュプレキサ実力値考慮	⑦ GB:5MHz ※ITSマスク改善、実力値考慮 ※サイトエンジニアリング ※中継局受信フィルタ挿入 ※小電力レベータ運用上の干渉軽減要素考慮 ※移動局製造マージン考慮	⑧ GB:0MHz (移動局・中継局・小電力レベータ) ※確率モデル 共用も可能 ※一定の離隔距離確保	⑨ GB:0MHz(移動局) ※確率モデル GB:1MHz(中継局・小電力レベータ) ※ラジオマイク実力値考慮 共用も可能 ※一定の離隔距離確保
TV放送	⑥ GB:8MHz (TV受信機器&TV受信用ブースタ) ※所要離隔距離確保 ※サイトエンジニアリング ※中継局送信フィルタ挿入 ※移動局/小電力レベータ不要輻射実力値考慮 ※TV側に受信フィルタ挿入	⑥ GB:60MHz (TV受信機器&TV受信用ブースタ) ※所要離隔距離確保 ※サイトエンジニアリング ※基地局/中継局送信フィルタ挿入 ※小電力レベータ不要輻射実力値考慮 ※TV側に受信フィルタ挿入		GB:5MHz ※ITS委で検討済	—	—
ITS	⑦ GB:5MHz(チャンネル幅:5MHz) GB:7MHz(チャンネル幅:10MHz又は15MHz) ※サイトエンジニアリング ※中継局送信フィルタ挿入 ※移動局/小電力レベータ運用上の干渉軽減要素、 不要輻射実力値考慮	⑦ GB:5MHz ※サイトエンジニアリング ※基地局/中継局送信フィルタ挿入 ※小電力レベータ運用上の干渉軽減要素、 不要輻射実力値考慮 ※ITS感度抑圧実力値考慮	GB:5MHz ※ITS委で検討済		⑧ GB:5MHz ※確率モデル ※FPU送信フィルタ実力値考慮 ※ITSの希望波レベル考慮	⑧ GB:5MHz ※確率モデル ※ITSの希望波レベル考慮
FPU	⑧ GB:3MHz(中継局) ※送信フィルタ挿入 ※中継局実力値考慮 GB:5MHz(小電力レベータ) ※小電力レベータ実力値考慮 ※一定の離隔距離確保 ※サイトエンジニアリング GB:10MHz(移動局) ※移動局実力値・送信特性考慮 ※一定の離隔距離確保 ※サイトエンジニアリング	⑧ GB:3MHz(中継局) ※送信フィルタ挿入 ※中継局実力値考慮 GB:4MHz(基地局・小電力レベータ) ※基地局送信フィルタ挿入 ※基地局/小電力レベータ 実力値考慮 ※小電力レベータ 一定の離隔距離確保 ※小電力レベータ サイトエンジニアリング	—	⑧ GB:5MHz ※ITS側マスク規格値強化 ※ITS送信フィルタ実力値考慮 ※ITS開欠送信による干渉緩和効果考慮 ※FPU伝送時のインターリーブ効果考慮 ※サイトエンジニアリング	【注】 各枠内の「GB:0MHz」は 最小所要ガードバンド幅を示し、左上の数字等(例:①、 A)は、「700MHz帯干渉検討 組合せ」の各組合せを示す。	
ラジオマイク	⑨ GB:3MHz(中継局・小電力レベータ) ※中継局送信フィルタ挿入 ※中継局/小電力レベータ実力値考慮 ※小電力レベータ実運用を考慮し総合的に判断 GB:4MHz(移動局) ※移動局実力値考慮 ※移動局実運用及び利用事例に応じた 調整を考慮して総合的に判断	⑨ GB:1MHz(小電力レベータ) ※小電力レベータ実力値考慮 GB:3MHz(基地局・中継局) ※送信フィルタ挿入 ※基地局/中継局実力値考慮 共用も可能 ※一定の離隔距離確保	—	⑧ GB:7.5MHz (ITS車載器で街角中継モデル、かつ、 ラジオマイク移行時の両者隣接期以外の場合) GB:5MHz (前記以外の場合) ※ITS側マスク規格値強化 ※ITS送信フィルタ実力値考慮 ※ITS開欠送信による干渉低減効果考慮 ※ラジオマイク運用方法等による干渉緩和効果考慮		

: 現行システムを前提に検討済

斜体字: 周波数移行過程時